

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0472200575
法人名	社会福祉法人鶴寿会
事業所名	認知症高齢者グループホームふれあい(ふれあい)
所在地	宮城県柴田郡川崎町大字川内字河原前5-3
自己評価作成日	平成 21 年 10 月 16 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://yell.hello-net.info/kouhyou/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階
訪問調査日	平成 21 年 11 月 10 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

* 年2回の家族会の実施を昨年から実施していますが、回数をこなすことにより家族からの意見が多くなり、ふれあいに対する協力体制も多くなり、利用者・家族・職員の和がうまく動きだしてきていますし、川崎町地域包括センターからも1年に1回出席して頂き行政との意見交換も出ています。
* 2つのユニットに職員をユニット毎に配置していましたが、全員の利用者様とご家族様を対応出来る様にしたい事から、半年かけ一本化する事が出来ました。実施したことにより、今までこれで良いんだと思っていたことが、いろんな目から見る事が出来るようになり、気づきを持てるようになりました。家族の面会にも16名全員が対応出来、誰に対しても声を掛けられるし、掛けて頂ける様になりました。又職員間でも休みの取り方が難しかったのですが、16名誰とでも交換できるし、休みも取らせやす

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

蔵王の大自然に囲まれて、家族のように暮らしていることが自慢という「グループホームふれあい」に相応しく、入居者が柿の皮むきをする傍らをゆったりとした時間が流れていた。入居者の急変時での協力医療機関の積極的対応や、入居申請・運営に関する役所、地域包括支援センターとの密接な連携、地域住民との日常的交流があるなど、地域との一体感が感じられた。また、「認知症の理解を得るための勉強会」を住民対象に行なうなど、高齢者福祉の拠点であることの認識もあり、社会的貢献への見識もある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 ふれあい)「ユニット名 ふれあい 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎年3月に職員から地域密着サービスの意義を取り入れた理念を考えて頂き、管理者と主任クラスで選考し、全体会議で発表し、4月より事務所と各ユニットに貼りだし、毎朝ミーティングで唱和している	年度当初に全員が各自で理念を作成した。その中から、地域への発信と入居者との向き合い方を念頭に選考した。「ゆったり・のんびり安心」「ふれあいから地域に溶け込み、馴染みの関係創り」毎朝これを唱和している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	国道を渡らないと民家が無く、中々地域住民との触れあう機会がありません。散歩しながら地域の方々に分かって頂ける様、職員も地域に馴染めるよう心がけています。畑作りは、地元の方々のアドバイスや協力を頂くなどの交流があります。	地域の保育所園児が遊びに来たり、中学生ボランティアが来訪する。ホーム主催の夏祭りは地域の互助会や婦人部、中学生の協力を得て実施し、地域の中心的な夏祭りになっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	昨年町民の勉強会の講師として認知症について話しています。又、中学生や高校生のボランティア受け入れ時に話す機会を作っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議は二ヶ月に1回川崎町の職員と包括支援センターの職員も参加して頂き実施しています。外部評価の結果や家族会の結果等も報告し意見等も頂いています。	当運営推進会議は法人複数施設を一括にしたものになっている。担当課と地域包括支援センターは毎回出席している。委員の提言によって新しく畑が作られ、入居者の楽しみが増えたようだ。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	川崎町の職員や地域包括支援センターの職員とはいつも連絡し合っています。新規利用者等は必ず町と調整の上入所して頂いているし、終末の利用者の場合は、頻りに様子を見に来て頂き、納得した対応に応じています。	ホームが地域高齢者福祉の拠点であることを行政は十分に認識している。町担当課の頻繁な来訪やホームが町の事業に積極的に協力するなど、両者間は理想的に連携できている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	20時には玄関の施錠をしますがそれ以外には施錠していません。一人で外に出る方の場合は職員が後ろから付いていくなど工夫しています。基本的に身体拘束はしない様に全員で話し合い、実施しています。	身体拘束の弊害について職員はよく理解している。入居者一人ひとりの外出傾向を把握して、入居者が納得できる会話で対応したり、就寝中の落下事故防止策に布団で対応するなど工夫している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会等には積極的に出席して頂き、学んでいただいています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会等には積極的に出席して頂き、学ぶ機会を持っていますが、活用した方はいません。必要性があれば関係機関と協議しながら対応していきたいと思っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時には、契約や重要説明は十分行い理解・納得頂いています。改定時は家族会等で説明し、同意書を頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回家族会を実施し、意見や要望を頂いています。利用者は、その都度お話を聞いています。意見や要望に対しては、全体会議等で課題の検討を行っている。	家族会があり、秋には芋煮会を実施し、打ち解けた雰囲気の中で家族が意見を出しやすいように工夫している。家族が来所の際には必ず声掛けし、入居者の様子などを話しながら要望・意見はないか聞くようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議やユニット会議などで意見を聞いている。職員の意見等は管理者会議等で報告し、質の向上に取り組んでいる。	ユニット会議や全体会議などで職員からの提言を受けて管理者会議で検討する体制が出来ている。同時に日常的に管理者への提言は言い易い環境になっており、現場からの意見を大事にする姿勢も見られた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年度初めやボーナス時に考課表(自己評価)を提出して頂きそれに対する評価を主任から管理者が行い、代表者に把握してもらっています。まだまだ、給与水準については不満もあるようですが少しずつではありますが、改善してきています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	実践者研修等は積極的に業務として参加させています。ケアの実際や力量については考課表などで把握してもらっています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に所属しているので交流する機会は作られています。仙南地区での相互訪問等もいつでもできる環境になっています。実践者研修や研修会等では学んだことを1つは実施して頂ける様話取り組んで頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人と関係のある方を交え、直接、ご本人とお話し出来る機会を設けて頂いています。思っている事やご希望等を伺い、戸惑いが無いよう努めております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	今まで生活してきた中で不安な事や又、ご希望があれば、それについてどのように対応していくか利用者様やご家族様にどのようなサービスを提供出来るかを利用前に何度か話し合っています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	町の地域包括センターや病院と連携し、本人と家族が必要としている支援を見極め、対応に努めております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様が出来る事・出来ない事をいろいろな角度から観察し、本人の残存能力を引き出させられるよう対応しています。特に、季節毎の昔からのしきたりや行事などは、人生の大先輩としての知識を発揮して頂いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との連絡を密にし、問題が生じた時には、ご本人にとって何が一番いいのかご家族と共に検討していきます。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	ご利用者様が昔から利用されてきたお店や病院に行く事で馴染みの方とお逢いする事が出来、笑顔も見られております。又、ご家族やご友人等にもいつでも面会にきて頂ける様、お願いしております。	入居前の地域での伝統行事に職員と一緒に参加したり、実家や菩提寺を見にドライブしたこともある。馴染みの理美容室を利用するのは日常である。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日の出来事を日誌や申し送りノート記入し、利用者一人一人の様子を把握し、その中でどのような対応を行っていくか検討し、職員が間に入りながら利用者様同士がうまくコミュニケーションがとれるよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院時の退所や、他のサービス利用の退所に際しては、職員が様子を見に伺っております。又、手紙や広報誌などを送り、退所後の相談にも応じております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや暮らし方、意向の把握に努めております。又、介護計画作成時は家族と話し合える機会を面会等利用し、実施しています。	入居者から表現することが多い。表出し難い、あるいはできない入居者についてはその家族から聞いたり、入居者の立場になって推察している。入居者の顔色や様子を見て、和らぐのを目安にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族の面会時にご本人の情報を伺い、生活歴などを把握出来るように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の記録に目を通し、心身状態や日中の様子などの観察を行い、記録しながら職員間で現状を把握出来るように努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	意思を直接話せる利用者様に意見を聞いたり、会議で職員同志話合うなどして介護計画に反映しています。又、ご家族には、面会時に要望などを伺います。	入居者に必要な支援について家族、主治医、職員の希望、意見を介護計画に反映させている。入居者の個性や特技、能力を活かした目標を設定することで、より具体的な達成改善につながっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の業務日誌(夜間日誌)を個別に記録し、職員間で情報を共有し、状況の変化に応じて対策を検討し、実践しながら介護計画の見直しにも生かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族の希望があれば、外出や外泊などがいつでも可能です。又、身体状況などに変化があった時には、第2みどりの園の支援も受けられますし、国保川崎病院からの支援体制も受けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	推進会議の中で意見交換の機会が設けられております。又、年に数回、中学、高校生がボランティアに来て頂き、七夕作りや園内の掃除などお手伝いして下さっております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の希望により、かかりつけの病院に受診出来るような体制を取っています。又、近くにある国保病院の医師による月1回の訪問診療を実施して頂いております。容態急変時などにも往診して頂いております。	入居者は入居前からのかかりつけ医を受診している。その際の同行は家族が行なうが、家族の求めがある時や状況の変化に応じて職員が同行する。受診後は主治医の指示や助言を記録し家族へ報告する。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	各個人個人の主治医や町立病院の看護師長・同法人内の第2みどりの園の看護師に相談しながら毎日の健康状態に注意しております。又、容態急変時等にも対応して頂いております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者様入院時は、職員が頻回に様子を見に行くようにし、医師や看護師と情報交換や相談が来ています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所の時にグループホームで出来ることを説明し、理解を頂いております。ご本人やご家族、かかりつけの医師、職員と話し合いを持ち、また、身よりの無い方については、川崎町や国保川崎病院と協議し、協力体制をお願いし、方針を共有しています。	契約書、重要事項説明書を説明することで家族の理解を得ていた。状況の変化に応じて家族や協力医療機関の医師と話し合い対応してきた。しかし、今後の入居者の重度化は避けられず、重度化・終末期の対応指針作成の必要を感じている。	入居時の種々の説明を以って「方針の共有」としてきたが、終末期の指針と言えるものではない。今年度中に指針を作成するとしているので期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当や初期対応の研修会に参加し、訓練を受けています。受けた内容を会議に報告し職員間で共有しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	川崎ドリームの郷として避難訓練を年2回実施。その内1回は消防署立会での実施。地域住民との実施は出来ませんが、推進会議で検討中各個人ごとのナップザックに必要なものを入れ持ち出し易い様玄関や茶の間に掛けてあります。	法人が主催する防災訓練で、夜間想定避難訓練を実施した。2つのユニットの窓構造の違いから避難方法に工夫が必要との課題も見え、今後ホーム独自の訓練も考えたいとしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	インスリン施行の方には、お部屋に戻って頂き実施して頂いています。性格や個性を十分に理解しその方にあった声掛けや対応が行えるよう職員会議などで定期的に話し合い情報を共有しています。	入居者の出身地の違いに合わせ、入居者をよく理解して話しかけの言葉に配慮したり、方言を用いて親近感を表現するなどしている。トイレ誘導の声掛けは他の入居者に目立たないようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の声に耳を傾け、行動を観察し如何したいのかを理解できるようコミュニケーションの中で感じ取り、ご本人の意思に添える様努力しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の中には帰宅願望を訴える方もいる。その中でただ声掛けするのではなく、時にはそっと見守り、時には一緒に付添ながら、その人のペースに合わせた関わり方が出来る様努力しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一日の始まりとして朝の起床時には整髪等身だしなみを整えています。又お化粧などお洒落もされている方もいます。外出する際等は職員と一緒に洋服を選び、その方にあったお洒落が出来る様支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べるだけを楽しみにするのではなく、芋の皮むきや果物の皮むき等や大根おろし・食器洗い等の後片付けなど一緒にお手伝いして頂いています。	週2回は頂き物や旬の物、入居者の好きな物などを取り入れる自由献立となっている。正月や誕生日等の行事食は入居者の楽しみとなっている。管理者は栄養士でもありバランスに配慮した献立作成を行なっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	所長が栄養士なので、献立は所長が立てています。水分量は、毎日チェックし、脱水に注意しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で出来る方に対しては、声掛けし実施して頂いています。介助が必要な方は、義歯洗浄やうがい・ガーゼで清拭等一人一人に合ったケアを実施しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各利用者の排泄パターンを把握し、時間毎のトイレ誘導を行っています。パンツや失禁パンツを使用しおむつ等の使用を減らす工夫をしています。自力排便が出来なかった利用者さまには主治医と相談し、薬使用にて自力排便が来ています。	入居者の排泄をチェック表に記録している。それぞれのパターンを把握し適切な誘導に役立てている。パターンに変化があった時は、食事の工夫や散歩、主治医の処方などで対処している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者の排便を毎日記録し、排泄パターンを把握しています。排便の報告が聞かれないときには、薬などで対応しています。日常的には、野菜を多く取って頂ける様な献立にし、適度な散歩も実施して頂いています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週一回の休みはありますが、希望があれば休みであっても実施しています。それ以外は毎日希望される方入浴して頂き、希望されない方は一日おきで実施しています。	ひとり風呂や一番風呂など入居者は自由な入浴の仕方を楽しみ、時間を制限されることなく入浴している。入浴したくない入居者には、入居前の環境などを点検してそれに近づけるなどの工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入所前に使用していた寝具類を持ってきて頂ける様お願いしています。ベット使用・布団使用どちらでも対応可能な状態になっています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理は全員の利用者さまこちらで管理しています。薬処方されると職員が日付を書き、数が合ってるか、処方間違いがないか確認し、管理しています。服用における症状の変化の確認にも努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の状況に合わせ、食事の準備や片付けのお手伝いをして頂いたり、本人の趣味を家族から伺い、協力して頂き、編み物・読書・絵などの楽しみごとで気分転換の支援をしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望により馴染みの美容室に出かけたり、スーパーやコンビニに出かけています。又、此方の行事でブドウ狩り等家族と一緒に楽しめる企画も整えています。	地元の店や理美容室は入居者にとって馴染みのところとなっている。買い物や散歩で日常的に出掛けている。年間行事での外出以外にも、天候や入居者の気分によってリフトバスで遠出することもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の管理は現在自分で出来る方が約5名程います。外出の際は自分で支払って頂いています。夏祭りの出店では、自分のお金で買い物する楽しみもあったようです。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自分で電話出来る方については、自由に使用して頂いていますし、自分で掛ける事が出来ない方については、お手伝いしています。手紙のやり取りやメールのやり取りなども支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物が木をふんだんに使用しているので、なんとなく落ち着いた暖かな雰囲気が漂っています。季節の花々で季節感を取り入れたり、季節毎の装飾など工夫しています。又、今年の夏には、食道にエアコンを設置し、温度管理が出来るようになりました。	施設内の湿度、温度は自動管理されていて、快適な環境が保たれている。毎日の清掃時には窓を開けて換気する。壁には行事の写真や入居者の作品、ボランティアの作品が飾られている。居間兼食堂の近くの小上がりは、堀ごたつでくつろぎの場となっている	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	茶の間には掘りごたつ、廊下には長椅子が置いてあり、気の合う利用者さまの憩いの場になっています。食堂は椅子使用ですが、状態を見計らい、電気こたつを置いたり、こたつ敷きを敷いて寝そべて頂いたり工夫しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時、自宅で使用していた布団や家具の持ち込みをお願いしています。また、仏壇などの持ち込みも出来る様にする事により安心して生活して頂ける工夫をしています。	部屋は広めの個室で小さな流しが備えてある。室内はすべて入居者の希望に合わせた部屋作りをしている。ベッド、こたつ、冷蔵庫、鏡台、たんす、仏壇など様々で配置もそれぞれ、その人らしさがうかがえた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	茶の間以外は段差がなく、安心して移動できるようになっていますので、車いすの方も自走して頂いています。トイレ等は、自分のトイレの場所を何度も教えることにより、自分のトイレで安心して排泄ができる様支援しています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0472200575	
法人名	社会福祉法人鶴寿会	
事業所名	認知症高齢者グループホームふれあい(ほのぼの)	
所在地	宮城県柴田郡川崎町大字川内字河原前5-3	
自己評価作成日	平成 21 年 10 月 16 日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://yell.hello-net.info/kouhyou/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階
訪問調査日	平成 21 年 11 月 10 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

* 年2回の家族会の実施を昨年から実施していますが、回数をこなすことにより家族からの意見が多くなり、ふれあいに対しての協力体制も多くなり、利用者・家族・職員の和がうまく動きだしてきていますし、川崎町地域包括センターからも1年に1回出席して頂き行政との意見交換も出ています。
* 2つのユニットに職員をユニット毎に配置していましたが、全員の利用者様とご家族様を対応出来る様にしたい事から、半年かけ一本化する事が出来ました。実施したことにより、今までこれで良いんだと思っていたことが、いろんな目から見る事が出来るようになり、気づきを持てるようになりました。家族の面会にも16名全員が対応出来、誰に対しても声を掛けられるし、掛けて頂ける様になりました。又職員間でも休みの取り方が難しかったのですが、16名誰とでも交換できるし、休みも取らせやす

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

蔵王の大自然に囲まれて、家族のように暮らしていることが自慢という「グループホームふれあい」に相応しく、入居者が柿の皮むきをする傍らをゆったりした時間が流れていた。入居者の急変時での協力医療機関の積極的対応や、入居申請・運営に関する役所、地域包括支援センターとの密接な連携、地域住民との日常的交流があるなど、地域との一体感が感じられた。また、「認知症の理解を得るための勉強会」を住民対象に行なうなど、高齢者福祉の拠点であることの認識もあり、社会的貢献への見識もある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	項 目	取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 ふれあい)「ユニット名 ほのぼの」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎年3月に職員から地域密着サービスの意義を取り入れた理念を考えて頂き、管理者と主任クラスで選考し、全体会議で発表し、4月より事務所と各ユニットに貼りだし、毎朝ミーティングで唱和している	年度当初に全員が各自で理念を作成した。その中から、地域への発信と入居者との向き合い方を念頭に選考した。「ゆったり・のんびり安心」「ふれあいから地域に溶け込み、馴染みの関係創り」毎朝これを唱和している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	国道を渡らないと民家が無く、中々地域住民との触れあう機会がありません。散歩しながら地域の方々に分かって頂ける様、職員も地域に馴染めるよう心がけています。畑作りは、地元の方々のアドバイスや協力を頂くなどの交流があります。	地域の保育所園児が遊びに来たり、中学生ボランティアが来訪する。ホーム主催の夏祭りは地域の互助会や婦人部、中学生の協力を得て実施し、地域の中心的な夏祭りになっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	昨年町民の勉強会の講師として認知症について話しています。又、中学生や高校生のボランティア受け入れ時に話す機会を作っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議は二ヶ月に1回川崎町の職員と包括支援センターの職員も参加して頂き実施しています。外部評価の結果や家族会の結果等も報告し意見等も頂いています。	当運営推進会議は法人複数施設を一括にしたものになっている。担当課と地域包括支援センターは毎回出席している。委員の提言によって新しく畑が作られ、入居者の楽しみが増えたようだ。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	川崎町の職員や地域包括支援センターの職員とはいつも連絡し合っています。新規利用者等は必ず町と調整の上入所して頂いているし、終末の利用者の場合は、頻りに様子を見に来て頂き、納得した対応に応じています。	ホームが地域高齢者福祉の拠点であることを行政は十分に認識している。町担当課の頻繁な来訪やホームが町の事業に積極的に協力するなど、両者間は理想的に連携できている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	20時には玄関の施錠をしますがそれ以外には施錠していません。一人で外に出る方の場合は職員が後ろから付いていくなど工夫しています。基本的に身体拘束はしない様に全員で話し合い、実施しています。	身体拘束の弊害について職員はよく理解している。入居者一人ひとりの外出傾向を把握して、入居者が納得できる会話で対応したり、就寝中の落下事故防止策に布団で対応するなど工夫している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会等には積極的に出席して頂き、学んでいただいています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会等には積極的に出席して頂き、学ぶ機会を持っていますが、活用した方はいません。必要性があれば関係機関と協議しながら対応していきたいと思っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時には、契約や重要説明は十分に行い理解・納得頂いています。改定時は家族会等で説明し、同意書を頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回家族会を実施し、意見や要望を頂いています。利用者は、その都度お話を聞いています。意見や要望に対しては、全体会議等で課題の検討を行っている。	家族会があり、秋には芋煮会を実施し、打ち解けた雰囲気の中で家族が意見を出しやすいように工夫している。家族が来所の際には必ず声掛けし、入居者の様子などを話しながら要望・意見はないか聞くようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議やユニット会議などで意見を聞いている。職員の意見等は管理者会議等で報告し、質の向上に取り組んでいる。	ユニット会議や全体会議などで職員からの提言を受けて管理者会議で検討する体制が出来ている。同時に日常的に管理者への提言は言い易い環境になっており、現場からの意見を大事にする姿勢も見られた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年度初めやボーナス時に考課表(自己評価)を提出して頂きそれに対する評価を主任から管理者が行い、代表者に把握してもらっています。まだまだ、給与水準については不満もあるようですが少しずつではありますが、改善してきています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	実践者研修等は積極的に業務として参加させています。ケアの実際や力量については考課表などで把握してもらっています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に所属しているので交流する機会は作られています。仙南地区での相互訪問等もいつでもできる環境になっています。実践者研修や研修会等では学んだことを1つは実施して頂ける様話取り組んで頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人と関係のある方を交え、直接、ご本人とお話し出来る機会を設けて頂いています。思っている事やご希望等を伺い、戸惑いが無いよう努めております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	今まで生活してきた中で不安な事や又、ご希望があれば、それについてどのように対応していくか利用者様やご家族様にどのようなサービスを提供出来るかを利用前に何度か話し合っています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	町の地域包括センターや病院と連携し、本人と家族が必要としている支援を見極め、対応に努めております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様が出来る事・出来ない事をいろいろな角度から観察し、本人の残存能力を引き出させられるよう対応しています。特に、季節毎の昔からのしきたりや行事などは、人生の大先輩としての知識を発揮して頂いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との連絡を密にし、問題が生じた時には、ご本人にとって何が一番いいのかご家族と共に検討していきます。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	ご利用者様が昔から利用されてきたお店や病院に行く事で馴染みの方とお逢いする事が出来、笑顔も見られております。又、ご家族やご友人等にもいつでも面会にきて頂ける様、お願いしております。	入居前の地域での伝統行事に職員と一緒に参加したり、実家や菩提寺を見にドライブしたこともある。馴染みの理美容室を利用するのは日常である。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日の出来事を日誌や申し送りノート記入し、利用者一人一人の様子を把握し、その中でどのような対応を行っていくか検討し、職員が間に入りながら利用者様同士がうまくコミュニケーションがとれるよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院時の退所や、他のサービス利用の退所に際しては、職員が様子を見に伺っております。又、手紙や広報誌などを送り、退所後の相談にも応じております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや暮らし方、意向の把握に努めております。又、介護計画作成時は家族と話し合える機会を面会等利用し、実施しています。	入居者から表現することが多い。表出し難い、あるいはできない入居者についてはその家族から聞いたり、入居者の立場になって推察している。入居者の顔色や様子を見て、和らぐのを目安にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族の面会時にご本人の情報を伺い、生活歴などを把握出来るように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の記録に目を通し、心身状態や日中の様子などの観察を行い、記録しながら職員間で現状を把握出来るように努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	意思を直接話せる利用者様に意見を聞いたり、会議で職員同志話合うなどして介護計画に反映しています。又、ご家族には、面会時に要望などを伺います。	入居者に必要な支援について家族、主治医、職員の希望、意見を介護計画に反映させている。入居者の個性や特技、能力を活かした目標を設定することで、より具体的な達成改善につながっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の業務日誌(夜間日誌)を個別に記録し、職員間で情報を共有し、状況の変化に応じて対策を検討し、実践しながら介護計画の見直しにも生かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族の希望があれば、外出や外泊などがいつでも可能です。又、身体状況などに変化があった時には、第2みどりの園の支援も受けられますし、国保川崎病院からの支援体制も受けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	推進会議の中で意見交換の機会が設けられております。又、年に数回、中学、高校生がボランティアに来て頂き、七夕作りや園内の掃除などお手伝いして下さっております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の希望により、かかりつけの病院に受診出来るような体制を取っています。又、近くにある国保病院の医師による月1回の訪問診療を実施して頂いております。容態急変時などにも往診して頂いております。	入居者は入居前からのかかりつけ医を受診している。その際の同行は家族が行なうが、家族の求めがある時や状況の変化に応じて職員が同行する。受診後は主治医の指示や助言を記録し家族へ報告する。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	各個人個人の主治医や町立病院の看護師長・同法人内の第2みどりの園の看護師に相談しながら毎日の健康状態に注意しております。又、容態急変時等にも対応して頂いております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者様入院時は、職員が頻回に様子を見に行くようにし、医師や看護師と情報交換や相談が来ています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所の時にグループホームで出来ることを説明し、理解を頂いております。ご本人やご家族、かかりつけの医師、職員と話し合いを持ち、また、身よりの無い方については、川崎町や国保川崎病院と協議し、協力体制をお願いし、方針を共有しています。	契約書、重要事項説明書を説明することで家族の理解を得ていた。状況の変化に応じて家族や協力医療機関の医師と話し合い対応してきた。しかし、今後の入居者の重度化は避けられず、重度化・終末期の対応指針作成の必要を感じている。	入居時の種々の説明を以って「方針の共有」としてきたが、終末期の指針と言えるものではない。今年度中に指針を作成するとしているので期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当や初期対応の研修会に参加し、訓練を受けています。受けた内容を会議に報告し職員間で共有しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	川崎ドリームの郷として避難訓練を年2回実施。その内1回は消防署立会での実施。地域住民との実施は出来ませんが、推進会議で検討中各個人ごとのナップザックに必要なものを入れ持ち出し易い様玄関や茶の間にかけてあります。	法人が主催する防災訓練で、夜間想定避難訓練を実施した。2つのユニットの窓構造の違いから避難方法に工夫が必要との課題も見え、今後ホーム独自の訓練も考えたいとしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	インスリン施行の方には、お部屋に戻って頂き実施して頂いています。性格や個性を十分に理解しその方にあった声掛けや対応が行えるよう職員会議などで定期的に話し合い情報を共有しています。	入居者の出身地の違いに合わせ、入居者をよく理解して話しかけの言葉に配慮したり、方言を用いて親近感を表現するなどしている。トイレ誘導の声掛けは他の入居者に目立たないようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の声に耳を傾け、行動を観察し如何したいのかを理解できるようコミュニケーションの中で感じ取り、ご本人の意思に添える様努力しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の中には帰宅願望を訴える方もいる。その中でただ声掛けするのではなく、時にはそっと見守り、時には一緒に付添ながら、その人のペースに合わせた関わり方が出来る様努力しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一日の始まりとして朝の起床時には整髪等身だしなみを整えています。又お化粧などお洒落もされている方もいます。外出する際等は職員と一緒に洋服を選び、その方にあったお洒落が出来る様支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べるだけを楽しみにするのではなく、芋の皮むきや果物の皮むき等や大根おろし・食器洗い等の後片付けなど一緒にお手伝いして頂いています。	週2回は頂き物や旬の物、入居者の好きな物などを取り入れる自由献立となっている。正月や誕生日等の行事食は入居者の楽しみとなっている。管理者は栄養士でもありバランスに配慮した献立作成を行なっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	所長が栄養士なので、献立は所長が立てています。水分量は、毎日チェックし、脱水に注意しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で出来る方に対しては、声掛けし実施して頂いています。介助が必要な方は、義歯洗浄やうがい・ガーゼで清拭等一人一人に合ったケアを実施しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各利用者の排泄パターンを把握し、時間毎のトイレ誘導を行っています。パンツや失禁パンツを使用しおむつ等の使用を減らす工夫をしています。自力排便が出来なかった利用者さまには主治医と相談し、薬使用にて自力排便が来ています。	入居者の排泄をチェック表に記録している。それぞれのパターンを把握し適切な誘導に役立てている。パターンに変化があった時は、食事の工夫や散歩、主治医の処方などで対処している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者の排便を毎日記録し、排泄パターンを把握しています。排便の報告が聞かれないときには、薬などで対応しています。日常的には、野菜を多く取って頂ける様な献立にし、適度な散歩も実施して頂いています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週一回の休みはありますが、希望があれば休みであっても実施しています。それ以外は毎日希望される方入浴して頂き、希望されない方は一日おきで実施しています。	ひとり風呂や一番風呂など入居者は自由な入浴の仕方を楽しみ、時間を制限されることなく入浴している。入浴したくない入居者には、入居前の環境などを点検してそれに近づけるなどの工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入所前に使用していた寝具類を持ってきて頂ける様お願いしています。ベット使用・布団使用どちらでも対応可能な状態になっています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理は全員の利用者さまこちらで管理しています。薬処方されると職員が日付を書き、数が合ってるか、処方間違いがないか確認し、管理しています。服用における症状の変化の確認にも努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の状況に合わせ、食事の準備や片付けのお手伝いをして頂いたり、本人の趣味を家族から伺い、協力して頂き、編み物・読書・絵などの楽しみごとで気分転換の支援をしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望により馴染みの美容室に出かけたり、スーパーやコンビニに出かけています。又、此方の行事でブドウ狩り等家族と一緒に楽しめる企画も整えています。	地元の店や理美容室は入居者にとって馴染みのところとなっている。買い物や散歩で日常的に出掛けている。年間行事での外出以外にも、天候や入居者の気分によってリフトバスで遠出することもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の管理は現在自分で出来る方が約5名程います。外出の際は自分で支払って頂いています。夏祭りの出店では、自分のお金で買い物する楽しみもあったようです。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自分で電話出来る方については、自由に使用して頂いていますし、自分で掛ける事が出来ない方については、お手伝いしています。手紙のやり取りやメールのやり取りなども支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物が木をふんだんに使用しているので、なんとなく落ち着いた暖かな雰囲気が漂っています。季節の花々で季節感を取り入れたり、季節毎の装飾など工夫しています。又、今年の夏には、食堂にエアコンを設置し、温度管理が出来るようになりました。	施設内の湿度、温度は自動管理されていて、快適な環境が保たれている。毎日の清掃時には窓を開けて換気する。壁には行事の写真や入居者の作品、ボランティアの作品が飾られている。居間兼食堂の近くの小上がりは、堀ごたつでくつろぎの場となっている	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	茶の間には掘りごたつ、廊下には長椅子が置いてあり、気の合う利用者さまの憩いの場になっています。食堂は椅子使用ですが、状態を見計らい、電気こたつを置いたり、こたつ敷きを敷いて寝そべて頂いたり工夫しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時、自宅で使用していた布団や家具の持ち込みをお願いしています。また、仏壇などの持ち込みも出来る様にする事により安心して生活して頂ける工夫をしています。	部屋は広めの個室で小さな流しが備えてある。室内はすべて入居者の希望に合わせた部屋作りをしている。ベッド、こたつ、冷蔵庫、鏡台、たんす、仏壇など様々で配置もそれぞれ、その人らしさがうかがえた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	茶の間以外は段差がなく、安心して移動できるようになっていますので、車いすの方も自走して頂いています。トイレ等は、自分のトイレの場所を何度も教えることにより、自分のトイレで安心して排泄ができる様支援しています。		